

タンザニア・ポレポレクラブ

2023年度 事業報告書



タンザニア・ポレポレクラブ

〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp
(HP) <https://polepoleclub.jp/>

2023年度 事業報告書

【海外事業】



ここ数年、毎年キリマンジャロ山でのプロジェクト視察、ホームステイを受け入れています。山麓住民の取り組みや、交流を通してお互いに理解を深めあう貴重な機会となっています。

概況

2023年は、タンザニア全土でそれまでの降雨不足から、大規模な停電が頻発した1年でした。2日に1回は6時間から12時間の停電となり、経済活動に少なからぬ影響が出ました。降雨不足はキリマンジャロ山での植林活動にも大きく影響し、2023年度は苗木が不足し、配布用苗木を植林に回さざるを得なくなりました。降雨の変動（減少）により、小雨季の植林はもう何年もできなくなっていますが、大雨季植林はこれまで苗畑同士で苗木をやりくりするなどして、何とか乗り切ってきました。しかし配布用苗木まで使わざるを得ない現状は、降雨の変動をカバーしきれなくなっていることを感じさせます。

一方、こうした気象の変化は作物生産にも影響を及ぼしており、サトウキビの不作からタンザニアでは生活必需品の砂糖の価格が倍になるなど、庶民の生活を圧迫し大きな社会問題となりました。これにドル高などによる輸入物価の上昇が加わり、政府の外貨準備高不足への懸念が国会でも論争となりました。現地事業はこうした現地物価の上昇に、さらに急激に進んだ円安が重なり、事業支出の増大という重い負担となつてのしかかってきています。

このように気候変動や物価上昇に悩まされながらも、安定した平和の存在はタンザニア最大の強みであり、事業に治安面での懸念なく取り組めることは、大きな安心材料となっています。この点ではクーデターによる政権転覆が相次いでいるサヘル地域や旧フランス領の国々（マリ、ブルキナファソ、ニジェール、ガボンなど）とは対極をなしているといえるでしょう。

事業全体としては、植林こそ計画通り実施できましたが、その他の多くの取り組みは様々な問題や課題に直面し、思うように達成できなかった1年となりました。

1. 世界遺産キリマンジャロ山におけるバッファゾーンの森（HMFS）への国立公園拡大問題の解決

●課題1：国会議員、タンザニア森林局長官との協議

キリマンジャロ選出国会議員およびタンザニア森林局（Tanzania Forest Service:TFS）長官との協議実現を引き続き目指す。キリマンジャロ国立公園拡大の問題は、この両者との協議なくして解決に導くのは難しいと考えている。

○結果

国会議員との協議実現を優先し、議員から TFS 長官に繋げていく方法を考えていた。しかし最初の国会議員との面会自体実現することができなかった。議員とは仲介者を通してコンタクトを図っていたが、仲介者が政治的な思惑や個人の利益を持ち込んだことから、議員の不信を招く結果となった。議員とのコンタクト方法の見直しが必要となっている。

●課題2：キボシヨ地区のハーフマイル・フォレスト・ストリップ（HMFS）返還実現を目指す

キボシヨ地区ハーフマイル・フォレスト・ストリップ（HMFS）への国立公園拡大については、州土地局が不当の指摘をしており、同エリアの返還実現を目指す。

○結果

キボシヨ地区の村長らと協議し、村から代表者を出し、州土地局長、県知事と数度にわたる協議を実施。土地局長は、この問題は土地局では解決不可能とされ、県知事からは天然資源観光省大臣に対応求めよとされる。同大臣および州知事に返還を求める書状を送付、数度にわたり回答の督促をするも、何らの回答も得られず。一方、キボシヨ地区以外の村々からは、一部地区のみを先行してこの問題の解決を図ることへの懸念が示された。このため、それ以上プッシュを続けることを取りやめた。

●課題3：HMFS 返還についてモシ県の森林沿いの村々と県知事との協議の実施

課題1と合わせ、問題解決のための重要な布石となってくる。HMFS の問題を解決するためには、最終的に大統領に問題をあげ、判断を仰ぐ必要があると考えている。ただし、州や県の頭越しにこれを行うことはできず、地方レベルでの問題提起をしておく必要がある。ただしその実行については村々と協議し、慎重に判断する。

○結果

モシ県下の森林沿いの40村と協議し、代表を組織し、州知事、県知事への面会を何度にも渡って求めた。しかし様々な理由をつけられ先延ばしにされ、両者にこの問題で協議する意思はないと判断した。このため、モシで開催された選挙キャンペーンおよび与党 CCM 創設 47 周年記念式典に代表団を派遣、問題解決を訴えた。選挙キャンペーンでは、党イデオロギー・プロパガンダ・教育局長にこの問題を取り上げてもらうことに成功。県知事との協議が指示される。ただし、この協議は結局実現せず。47 周年記念式典では、村長らの訴えに対し、州知事は党重要人物の前で問題を訴えるなどの姿勢を示す。ただし、これらの結果を持って、頭越し問題はクリアしたものと判断。目的自体は達成されたと考える。

●課題4：人権団体・法と人権センター（Legal and Human Rights Centre：LHRC）との協力継続

国立公園拡大の問題解決ないしは山麓住民主体による森林保全活動支援のための共同プロジェクトの形成を図る。

○結果

LHRC 側の時間的な制約のため、2023 年度はほとんど何もできずに終わった。共同プロジェクトについては、国立公園問題の解決に重きを置きたい村側と、森林保全活動支援を優先したい LHRC 側とで齟齬も出てきており、再考が必要となっている。

2. 植林活動

●課題1： キリマンジャロ山における1万本の村落植林実施

キリマンジャロ山麓に暮らす村人たちにとって、里山の森のように機能してきた HMFS の国立公園への取り込みにより、山麓村では日々の生活を支えていくための社会生活林造成に対するニーズが高まっている。このため、薪炭材・飼料の確保、土壌肥沃度の維持、水分保持、蜜源樹植林を目的として、マルチパーパスツリーによる6千本の植林に山麓住民とともに取り組む。同様に、村周縁に広がる荒地緑化を目的として4千本の植林に取り組む。植林地はキリマンジャロ東山麓にあるマリंगा村、ロレ村の周辺地。本植林は、国土緑化推進機構「緑の募金」助成金により実施されました。

○結果

マルチパーパスツリーによる植林はロレ村の村内裸地で実施。植林樹種は枝葉が薪や家畜飼料となったり、伝統薬となるもので、*Callistemon speciosus*（フトモモ科）、*Calliandra calothyrsus*（マメ科）、*Cordia abyssinica*（ムラサキ科）、*Croton macrostachys*（トウダイグサ科）、*Grevillea robusta*（ヤマモガシ科）の5樹種で計5,000本が植えられた。一方、荒地緑化植林はマリंगा村で実施。現場は森を失い、イネ科の雑草に覆われてしまった場所で、やせた土壌に強いマツ科の *Pinus patula* の苗木5,000本が300人以上の村人たちによって植えられた。



マリंगा村で植林に取り組む村人たち

●課題2： キリマンジャロ山の裸地尾根での7千本の森林再生植林

HMFS 内への植林が困難であることから、植林の重点をキリマンジャロ山の裸地尾根での森林再生および半乾燥地緑化に移す。2023年度はこれを目的としてムウィカ群、キルア郡において計7千本の植林に取り組む。

○結果

計画通り、(1)キルア郡の裸地尾根で *Pinus patula*（マツ科）の苗木3,000本（参加村人150人、生徒100人）、(2)ムウィカ郡の半乾燥地で *Calliandra calothyrsus*（マメ科）1,000本、*Cordia abyssinica*（ムラサキ科）1,500本、*Grevillea robusta*（ヤマモガシ科）1,500本の植林を実施（参加村人50人、生徒50人）。ただし、(1)、(2)の植林とも、植林計画をカバーするために当初村人への配布を予定していた苗木を補充して使ったため（*Pinus patula* を除く全樹種）、2023年度は苗木配布ができなかった。本植林は、公益信託地球環境日本基金の助成金により実施されました。



キリマンジャロ山に広がる裸地化した尾根の様子

●課題3：新規苗畑1箇所の新設

小雨季の降雨の不安定化により山麓での苗木供給能力の強化が求められている。このためキリマンジャロ山麓ムボコム郡に小学校苗畑1カ所を新たに立ち上げ、定期巡回による苗畑運営指導を行う。

○結果：

ムボコム郡テマ村のオリモ小学校に苗畑を開設した。同小学校にはもともと苗畑があったが、TEACA事務所の開設にともないそちらに移設され、その後苗畑活動は終了していた。このため学校敷地に新たに苗畑用地を確保し、実質的に新規開設となった。育苗規模は4千本で、それらの苗木は2024年度の大雨季植林で植えられる予定。



オリモ小学校に立ち上げた苗畑

●課題4：苗畑運営の資金面での持続性を確保

新たに販売用として果樹（アボカド）の接ぎ木苗の生産を開始する。このための接ぎ木技術指導、グリーンハウス設置、苗畑グループ間での技術交流に取り組む。

○結果

TEACAスタッフ及び裁縫教室生徒を対象に、計3回の接ぎ木セミナーを実施、事務所敷地に接ぎ木苗養生用のグリーンハウスを設置した。接ぎ木は計600本を行い、そのうち200本が販売された。村の中での販売には限界があり、販路の開拓が必要とされている。

●課題5：蜜源樹の多様化

ミツバチの棲みやすい環境を整備していくため、山麓一帯に広く蜜源樹が植えられている状態を目指す必要がある。様々な条件下で蜜源樹の植林を進めるため、樹種の多様化が求められている。2023年度は新たな蜜源樹として *Calliandra Calothyris*（マメ科）を加える。これにより蜜源樹は同樹種のほか、*Cordia Abyssinica*（ムラサキ科）、*Croton Macrostachys*（トウダイグサ科）、*Croton Megalocarpus*（トウダイグサ科）、*Grevillea Robusta*（ヤマモガシ）の計5樹種となる。

○結果

Calliandra Calothyris を新たな育苗樹種に加え、TEACA苗畑で2,000本が育苗中である。この苗木は、2024年度大雨季に配布される予定。このほか *Cordia Abyssinica*（1,000本）、*Grevillea Robusta*（1,000本）が配布予定となっている。一方、*Croton Macrostachys*、*C. Megalocarpus* は種子調達ができず、育苗できなかった。

3. 養蜂

●課題1：養蜂箱の改良

湿度による材の変形および害虫対策のための養蜂箱の改良に取り組む。とくにタンザニアの森林帯での害虫（スモール・ハイブ・ビートル）による被害が深刻で、現在のトップタイプ養蜂箱にはこれを防ぐ手立てがない。このため害虫防除のための新たな技術、構造を検討し、養蜂箱に導入する。

○結果

湿度による材の変形については、養蜂箱の四隅に変形防止のための金具を取り付けた。一方、害虫防除では侵入防止、侵入後の捕獲、繁殖防止のそれぞれで対策を行ったが、良い結果を得るに至らず、引き続き対策が必要とされている。現在害虫対策のためにほとんどの養蜂箱を撤収しており、設置数は3箱のみとなっている。2023年度の採蜜量は7Lの結果であった。



害虫の繁殖防止対策で、
床をセメント施工した
養蜂小屋

●課題2： キャッチボックスの効果確認

キャッチボックスによる新群確保の効果を確認する。群れの確保ができるようになれば、キリマンジャロ山麓における養蜂拡大の可能性を飛躍的に高めることになる。

○結果

キャッチボックス2箱を初めて設置した。この2箱とも新群確保に成功し、キャッチボックスの効果を確認できた。ただしこの2箱とも、その後の長雨で群れが逃亡してしまった。効果自体は確認されたので、害虫防除対策に目処が付けば、その後の養蜂箱の設置拡大にかなり寄与すると思われる。

●課題3： 養蜂グループの拡大

キリマンジャロ山麓マランゲーの養蜂グループと新たに協力を開始する。このためトッパー養蜂箱の支給、技術指導を実施する。また蜜源樹育苗のための苗畑開設の可能性についてグループメンバーと協議、検討する。

○結果

新規グループとの協力拡大より、害虫防除に目処をつけることが先決と判断し、実施を見送った。

4. 養 鶏

●課題1： 飼料効率の高い Kloirer 種の調達可能性調査

ロシアのウクライナ侵攻による飼料価格の急騰のため、産卵率の低い国内在来種で養鶏を採算ベースに乗せるのが困難となってしまった。さらにタンザニア政府が海外産雛を禁輸としたことから、飼料効率の高い Kloirer 種の導入も厳しくなった。そこで禁輸前に輸入された雛の再生産雛の調達可能性を調査する。

○結果

調査の結果、再生産雛とされるものの調達は可能であることが分かったが、品種管理が徹底されておらず、交雑種である可能性が否定できないと判断した。現在の飼料価格では Kloirer 種以外では採算性が見通せず、養鶏については当面諦めざるを得ない。

●課題2： Kloirer 種の調達が可能となった場合、30羽程度の規模で試験養鶏を実施する。

○結果

課題1の結果より、試験養鶏は実施できなかった。

5. 改良カマド普及

●課題1： 新型改良カマドの普及拡大

キリマンジャロ山麓テマ村で従来の改良カマドの欠点を改善した新型カマドの普及拡大を図る。2023年度は設置対象村区をマイデニ村区からムウィカ、キマンボニ、テマ、フォイエニの各村区まで拡大する。設置数は最低 20 基とする。

○結果

計画していたマイデニ、ムウィカ、キマンボニ、テマ、フォイエニ村区に加え、ナティロ村区および隣のキディア村まで設置エリアを拡大した。これにともない設置数も増やし、計 30 基を設置した。住民からの設置要望は非常に多いが、資材費、運送費の高騰が普及の足かせとなりつつある。



町の工場で改良カマド用レンガの搬出作業中

●課題2： 使用マニュアルの作成、配布

改良カマドの設置先に配布するための「改良カマド使用マニュアル」を作成、配布する。

○結果

改良カマドのメリットを最大限活用できるよう、改良カマドのメリット、薪の正しい置き方、鍋の使い分けなどをまとめたマニュアルを作成し、これまでにカマドを設置した家庭に配布した。また新たに設置する家でも、カマド職人がマニュアルを使って説明してもらうようにした。

6. 裁縫教室支援

●課題1： 職業訓練校(VETA)離脱後の生徒確保

これまで裁縫教室は政府職業訓練校の認定校であったが、制度見直しにともなう再認定の結果が1年近く出されず、新入生募集ができない事態となっている。さらに再認定された場合、教師給与の増額、設備の拡充等を示唆されており、実施すれば学費の大幅に上げなければならなくなる。これはただでさえ学費を払えない貧困家庭を切り捨てることになり、裁縫教室の運営趣旨と相容れなくなる。このため裁縫教室は VETA から離脱することとする。

○結果

VETA からの離脱を実施した。

●課題2： VETA 離脱後の生徒確保

VETA からの離脱で学費の値上げは避けられる一方、国家試験の受験資格を失うことになる。これに加え、貧困家庭では学費を払うことが困難となっている状況も踏まえ、2023年度は学費の値下げを行い、国家試験受験資格なし、低い学費という条件下での応募状況を見極めることとする。ただし本来新学期は1月から始まっているが、VETA による再認定結果を待った結果、生徒募集ができておらず、2023年度は学期半ばでの募集とならざるを得ない。このため多数の応募を期待することはできない。

○結 果

生徒から徴収する費用は食費のみとした。これにより政府職業訓練校と比べると、費用は半分以下となった。一方、教える教科数もこれまでの一般教養を含んだ 10 教科から縫製技術に絞った 3 教科となり、従来の 2 年制を 1 年制に改めた。入学者数は 6 人の結果だったが、学期途中での募集の結果としては、それほど悪くないと判断している。

●課題 3： 教師給与の支援

貧困家庭の救済を目的に運営してきた裁縫教室は、もともと他校と比べても割安な学費を設定しており、学費値下げのためにこれ以上経費を圧縮することは困難となっている。そこで 2023 年度は教師人件費への支援を行い、学費値下げを支えることとする。

○結 果

教師人件費（約 18 万円）の支援を行った。

●課題 4： 他団体との協力

タンザニア・ポレポレクラブとして教師人件費を継続的に支援していくことは難しく、貧困家庭の学費支援を行っているタンザニア国内の NGO、教会等に対し、支援への協力を求める。

○結 果

海外からの学費支援プログラムを受けている複数のキリスト教会および教会系 NGO と協議したが、どこも現在支援を実施している先以外での新規受付を行っておらず成功しなかった。これまでも機会を探ってきたが、どれも上手くいっておらず、外部からの支援を得るのは厳しいのが現状である。

7. 診療所支援

●課題 1 医師用住宅建設支援

村への医師の常駐を可能とするため、医師用住宅として残っている一世帯分の建設費支援に引き続き取り組む。ただし支援は建設費の一部とし、基本的に県政府の資金で建設が進められるよう、予算確保に注力する。

○結 果

建設を監督すべき村の診療所委員会が十全に機能しておらず、建設計画の立案・実行、資金管理に問題を抱えている。このような状態で支援するのは適切でないと判断し、建設への支援は見送った。

一方、診療所に赴任した医師とは良好な関係構築ができ、医師の管理の下で診療所への資機材支援を行った（ノートパソコン 2 台、1,000L の給水タンク 1 基）。

●課題 2： 診療所利用状況データの取得

地域住民による診療所の利用状況を把握する上でデータ取得は欠かせないが、県政府がデータ提供に後ろ向きで、実質的に不可能となりつつある。2023 年度も診療所委員会を通じたデータ取得など引き続き試みるが、見込は薄い。

○結 果

医師と状況を話し合い、彼から毎月データを直接提供してもらうことで合意した。データ提供は 2024 年 1 月分からとし、すでに提供が開始されている。提供データの内容は、来診患者数、男女別人数大人・子ども別人数、病気内訳、予防接種者数の 5 項目。当会からも過去の収集データ、推移データなどの二次データをフィードバックしている。



診療所に設置された給水タンク

8. 学校への文具支援

●課題：植林活動に積極的に取り組んでいるキリマンジャロ山麓の小学校への文具支援継続

○結果

長く苗畑を運営し植林活動を支えているマヌ小学校および 2023 年度に苗畑を開設したオリモ小学校の2校に筆記用具、ノートを寄贈した。

【国内事業】

1. ニュースレター、現地通信

●課題：ニュースレター年3回の発行

2023 年度は 2022 年度と同様、ニュースレター 3 回、現地ハガキ通信 2 回の発行を計画する。

○結果

現地からのハガキ通信は 2 回実施できたが、ニュースレターは 65 号（2023 年 6 月）、66 号（同 11 月）の 2 回発行にとどまった。現地調査が半年に及びようになってきており、残り半年で 3 回のニュースレター発行は、実現が厳しい状況となっている。

65 号内容	66 号内容
<ul style="list-style-type: none">・キリマンジャロ山の環境調整機能・キリマンジャロ国立公園拡大問題 ～世界遺産という壁～・環境保全事業 （植林事業）大雨季植林が取り組まれています・収入向上事業 （養蜂事業）害虫対策に苦慮 （養鶏事業）政府の禁輸措置で試験養鶏の 継続困難に・自活支援事業 （裁縫教室）新たな一歩を踏み出す裁縫教室・生活改善事業 （改良カマド）新設計の改良カマドの設置が 進んでいます （診療所支援）診療所付帯住宅一棟完成・その他事業 小学校への文具支援実施・タンザニア関連情報 裁縫教室へのご支援をお願いします	<ul style="list-style-type: none">・村訪問を受け入れ・キリマンジャロ国立公園拡大問題 ～村が動く～・環境保全事業 （植林事業）新苗畑を立ち上げ・収入向上事業 （養蜂事業）害虫対策、惨敗に終わる・生活改善事業 （改良カマド）近隣村区への設置継続中・自活支援事業 （裁縫教室）新年度に向けた広報活動に着手・その他事業 接ぎ木研修を実施 診療所に医師が赴任 土壌改良のための籾殻燻炭を試験中・タンザニア関連情報 書籍紹介「キリマンジャロポレポレ記」 タンザニア、VPN 実質禁止へ キリマンジャロ山へのケーブルカー建設 タンザニアのコーヒー生産、過去最高を記録

2. 現地事業視察、ホームステイ受け入れ

●課題

当会の活動、取り組みに現場で接し理解を深めてもらい、またタンザニアの農村やそこに暮らす人々の素顔に触れることを通して、お互いの理解や交流を深める一つの機会としてもらうため、2022年度に再開した現地事業視察、ホームステイ受け入れを継続実施する。

○結果

2023年8月に14名をテマ村での事業視察およびホームステイプログラムで受け入れ、同9月にロレ村に2名をホームステイで受け入れた。普段着の村人たちと直接接触し合い、村の生活や彼らの取り組みを見てもらえることは、言葉では伝えきれない多くのものを経験したり学んでいただける良い機会となっており、また村人たち、彼らの活動にも様々な刺激をもたらしてくれている。

3. 企業との関係づくり

●課題

タンザニアでの取り組みに新たな視点や知見、技術を取り入れていくため、当会の活動の3本柱である「環境・森林保全」、「生活改善・収入向上」、「自立支援」の関連分野（緑化、養鶏、福祉等）事業に携わる企業ないしはアフリカで事業展開する企業との関係づくりに取り組む。

○結果

日本のロータリークラブとタンザニアのロータリークラブを結びつけたキリマンジャロ山での植林プロジェクトについて、その可能性調査に着手した。事業化の可否についてはまだ追調査が必要とされており、2024年度への持ち越し課題となっている。

4. インターネットを活用した取り組み

●課題

現地での事業フォロー、調査が長期に及びようになり、日本でのイベントシーズンに重なり出展が難しくなっている。そこで時期を選ばず開催できるWeb会議システム利用による現地活動紹介、活動報告を実施する。

○結果

裁縫教室事業について、ご支援いただいている国際ソロプチミスト浜松に対し、ウェビナー形式での報告会を実施した。また、東京日本橋ロータリークラブの例会において、キリマンジャロ山での植林活動について卓話を行った。現地での取り組みのフィードバックは重要であり、また当会の取り組みへの理解、関心を持っていただける貴重な機会となった。

●課題

イベントへの出展は当会の収入機会ともなっていた。収入減を少しでも補うため、2022年度に着手できなかったインターネット利用による物品販売に取り組む。新ホームページにネット販売のページを実装できないかについても検討することとする。

○結果

2023年度も、本課題に着手することはできなかった。現地物品の調達についても、現地の物価高や円安等から予算に余裕がなく、少なくとも円高に振れない限り動ける状況ではなくなっている。そうした中で、シタニアート様からリランガカレンダーのご提供と販売のご許可をいただき、販売収入に結びつけることができた。ここに記して感謝申し上げます。

リランガカレンダー 2024





タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp、(HP) <https://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103